

令和2年10月28日

日立理科クラブ通信

No. 149



日立理科クラブ

第13回ひたち水ロケット大会 主催 日立理科クラブ

各種大会が中止になっている中、主催者の日立理科クラブは、コロナ対策を前面に出して水ロケット大会を実施することとしました。3密回避のため観覧席を指定席にし、検温、手の消毒等、参加者・係員・保護者など全員に徹底し、確認できた場合、安全マークとして緑のシールを胸に貼って臨みました。開会式も簡素にし、新たに日立理科クラブ



3密を避けての記念撮影



特製の大型紙芝居を用意し、新型コロナウイルス感染対策への対応や世界や日本の現状、気のゆるみが感染のリスクにつながっていくことの恐ろしさをアピールしました。参加した児童はもちろん、保護者や関係者の皆さんにも、新型コロナウイルス対策の重要性を共有し、再確認できたのではないかと思います。



歓声の代わりに拍手をというアナウンスのもと、緊張した面持ちの選手たち

が登場し、飛距離部門が開始されました。向かい風が上空ではやや強く、ロケットの先端部やロケット全体のバランス性能により、風にあおられたり、高く上がってしまったりと飛距離に差が出てしまったようです。それでも、発射という掛け声で飛び出した水ロケットの飛行に、選手たちはとても満足そうな表情でした。「まっすぐ飛んだね」「きれいな飛び方だ。」「勢いがいいね。」などと励ます係員の言葉に、選手たちは嬉しそうな笑顔をのぞかせていました。滞空時間部門は、グラウンドの真ん中で行われました。発射装置を真上に設置し、発射後見事に落下傘が開いて滞空時間を競います。落



下傘が開かず、そのまま落下したり、ロケット胴体と分離していつまでも浮遊してしまったものもあり、選手の複雑な表情もみられました。滞空時間、舞い上がった落下傘が空と一体になり、ふわふわと飛ぶ姿に、集まった人たちの視線が集中していました。久しぶりの秋晴れの中、笑顔の絶えない大会となりました。今回は、大人の参加も認め、表彰式では特別賞として、入賞した保護者の方に、カボチャやダイコンなどが授与され、観客席から温かい笑い声が聞こえてきました。

コロナ対策を万全にして行った水ロケット大会、今までとは違った形ではありますが、参加した児童たちには、思い出に残った楽しいひと時になったのではないのでしょうか。来年もぜひ参加を!!



飛距離部門 (参加者 53名)

優勝	平倉 徹郎 (宮田小3年)	142.95m
準優勝	池口 怜亮 (会瀬小2年)	142.62m
3位	岡部 孝成 (宮田小5年)	136.70m
4位	琴寄 遥斗 (田尻小3年)	135.70m
5位	岡部 実和 (宮田小1年)	134.45m
6位	鈴木 理桜 (助川小2年)	132.80m
よく	鈴木 統真 (聖児幼稚園)	121.40m
よく	長野 文星 (諏訪かおる幼)	118.80m

滞空時間部門 (参加者 15名)

優勝	真鍋章太郎 (宮田小1年)	26秒8
準優勝	橋本 柊 (大沼小1年)	26秒7
3位	海野紗亜弥 (宮田小3年)	25秒2
4位	青戸 佑成 (日高小3年)	19秒4
5位	岡部 孝成 (宮田小5年)	16秒8
よく	長野 文星 (諏訪かおる幼)	19秒8

優勝 (日立市教育長賞) 準優勝 (日立製作所賞) 3位 (日立理科クラブ賞) よく (よく飛んだで賞)